

木曾川高校

ボランティア新聞 No. 4

夏休み福祉体験学習の感想を寄せてもらいました。



老人施設マグノリアにて

3年 E.Yくん

今日まで私は様々なボランティアに参加してきました。その中でも「福祉」に常に興味を持っており、将来は福祉系の職に就きたいと思っています。私は今まで「福祉」という言葉を聞いて、障がい者や高齢者、生活に困っている人を介護したり助けたりすることしか思い浮かびませんでした。

今回榎の木作業所を訪問し、たくさんのことを学びました。そして自分が思う「福祉」というものが見つかりました。それは「歩み寄る努力をする」ということです。この世界に自分と全く同じ考えを持つ人などいません。その中で障がいがある人となない人が見る世界を完全に理解するのは難しいかもしれません。しかし、障がいのない私たちがその世界に無理解矢理踏み込むのではなく、歩み寄ろうと努力することが「福祉」なのではないか、と思いました。

2年 K.Aくん

私は最初、榎の木作業所がどのような所なのか全く分かりませんでした。障がいを持つ方がいらっしゃるのを知っていましたが、あとは行けば分かると思い、ボランティアに参加しました。榎の木作業所では障がいを持つ方々が毎日決められた時間に仕事をして、自らお金を稼ぎ、共同生活をする場所でした。私は今まで障がいを持つ方は誰かに支えられて生きていくと思っていたのですが、仕事をして人々の役に立ち、社会に貢献しているという点で、健常者と違いがないということが分かりました。

3年 I.Yさん

私は特別養護老人施設マグノリアへ、福

祉体験学習に行きました。「自分はお年寄りが好きだから大丈夫だ。」と最初は思っていたのですが、質問しても答がよく聞き取れず大変でした。スタッフの方を見ると、ひとりひとりの体調をきちんと把握し、コミュニケーションをとっていて尊敬しました。やはり、人とコミュニケーションをとる上で一番大切なことは信頼関係を築くことだと思いました。これはスタッフと利用している方だけでなく、全ての人にあてはまることだと思います。机の上だけでは学ぶことができない貴重な体験をさせて頂きました。

福祉とは全ての人に関係することです。将来その福祉に関わる仕事をしていきたいと思いました。

2年 T.Aさん

私は今回のボランティアでコミュニケーションの大切さや、優しさについて学びました。将来は人の役に立つ仕事がしたいので、とても良い機会だと思いました。

当日はまず、設備や毎日の仕事内容について教えてもらいました。マグノリアは全て個室で、お年寄りが暮らしやすくなっていました。ベッドの高さや位置がその人に適するようになっていて、細かい配慮がなされていました。その中で最も驚いたのはお風呂です。立てない人や座れない人のためにどんな状態でも使えるように工夫されていました。

午後は入居されている方とのコミュニケーションの時間でした。なかなかうち解けられなかったので、普段から会話をすることが大切だと思いました。

今後これらの経験をどこかで役立てていきたいと思います。



榎の木作業所にて

2学期のボランティア

赤い羽根共同募金	10月
木曾川富田地区保全活動	10月
びさいまつり供人	10月
かしの木フェスティバル	11月
赤い羽根共同募金(校内)	11月